

セゾンエアコン 据付説明書・電気配線工事説明書

FDUP 801~2801

PJD012D009

お願い

- 下記に示すような場所での据付、使用は避けてください。
 - ▶油の飛沫や蒸気の多い所（例：調理場、機械工場）
熱交換器の性能低下・腐食、プラスチック部品の破損の原因となります。
 - ▶腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性がある場所。熱交換器の腐食、プラスチック部品の破損の原因となります。又、可燃性ガスは発火の原因になることがあります。
 - ▶病院などの電磁波を発生する機器の近く、高周波の発生する機器の近く。ノイズ発生によるコントローラの誤動作の原因となります。
 - ▶潮風が当たる所（海浜地区）。外板、熱交換器の腐食の原因となります。

△注意

- 下記に据付け上の注意事項を示しますので必ずお守りください。
 - ▶直射日光の当たる所にリモコンを設置しないでください。リモコンの故障や変形の原因になることがあります。
 - ▶アースを取ってください。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は誤動作や感電の原因になることがあります。
 - ▶漏電ブレーカーの取り付けが必要です。漏電ブレーカーが取り付けられていないと感電や火災の原因となる場合があります。
 - ▶エアコンの重量に十分耐えられる場所に確実に設置してください。据付けに不備があるとユニットの落下によるケガや振動及び運転音増大の原因になります。
 - ▶冷媒ガスが漏れた時、室内の冷媒濃度が限界濃度（0.3kg/m³）を超える恐れのある場合は、窒息防止のために隣室との間の開口部やガス漏れ検知警報と連動する機械換気装置等の取付けが必要となりますので、お買い上げの販売店にご相談ください。

〈お願い事項〉

- 取扱説明書を見ながら、お客様に実際に操作していただき、正しい運転のしかた（特にエアフィルタの清掃、運転操作のしかた、温度調節の方法）をご説明ください。
- 長時間使用しない時は、電源スイッチを切るようにお客様にご説明ください。
電源スイッチを入れたままにしておきますと、クランクケースヒータ等に通電されエアコンを使用しなくても電力を消費することになります。

工事完了後、これだけは再チェック願います。

チェック項目	不良だと	チェック欄
室内外のユニットの取り付けはしっかりしていますか。	落下・振動・騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない・暖まらない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体に表示の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない・暖まらない	

①据付のまえに

- 据付はこの据付説明書に従って正しく行なってください。
- 工事計画にあっておりますか。


機種・電源仕様

確認してください




配管・配線・小物部品

付属品

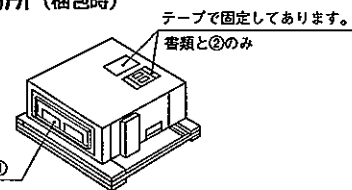
① ドレン関係

1	ホースクランプ		1個	ドレン配管用
---	---------	---	----	--------

② フレアナット部断熱用

1	パイプカバー		1個	ガス側用
2	パイプカバー		1個	液側用
3	バンド		4個	

付属品収納場所（梱包時）



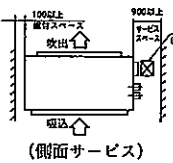
記号①はこの吹出口の内部にテープで固定してあります。

②室内ユニットの据付場所の選定

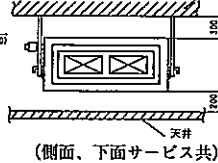
(室内機)

据付＆サービススペース
(ここに示す据付＆サービススペース、空気条件、風量限界は必ず守ってください。)

平面図 (単位: mm)



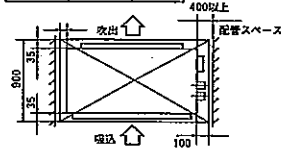
平面図 (単位: mm)



次に示すような方法が可能な場合は、左記と示す条件を満たさない時には

平面図 (単位: mm)
全シリーズ
正面図については左記と同様とします。
点検口

機種	幅	高さ
標準シリーズ (インバータシリーズ)	80	900X380
140, 160	112, 140	900X1160
224, 280	-	900X1730



- 据付場所は下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
 - 冷風または温風が十分行きわたる所。据付高さが3mを越えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をお勧めください。
 - 室外への配管、配線のしやすい所。
 - ドレン排水が完全にできる所。ドレン勾配のとれる所。
 - 吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
 - 周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80%以下の所。

(高湿度の所に据付ける場合は本体の断熱等露付に対する配慮をしてください。本ユニットは、JIS露付条件にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態では運転すると、水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用できる可能性のある場合には、ユニット本体の全ての配管、ドレン配管にさらに10mm~20mmの断熱材を取り付けてください。

- 据付けようとする場所がユニットの重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。

空気条件・風量限界

(50Hz/60Hz)

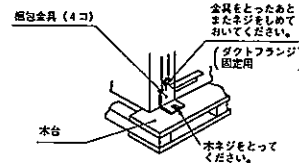
標準機シリーズ	インバータシリーズ	風量 m ³ /min			室内ユニット吸込空気温度		室内ユニット周囲の空気温度
		定格	下段	上段	冷房	暖房	
80	-	20/24	15/18	25/16	上限24℃WB 外温35℃のとき	上限27℃CDB 外温20℃WB以下	上限 露点温度 28℃以下 相対湿度 80%以下
112	80	27/32	20/24	34/35	下限16℃WB 外温15℃のとき	下限10℃CDB 外温-10℃WB以上	下限 0℃CDB
140	112, 140	34/40	26/30	43/44			
160	-	41/48	31/36	52/53	くわしくは弊社発行の技術資料を参照願います。		
224	-	51/60	38/45	65/66			
280	-	68/80	51/60	87/88			

③ユニットの搬入、据付

搬入

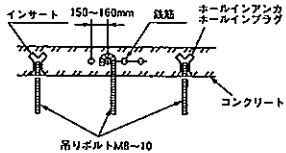
- 搬入時はできるだけ据付場所の近くまで梱包のまま搬入してください。
- 解体して搬入する場合、ユニットを傷つけないよう搬入してください。

(梱包金具について)
梱包金具(4コ)は不要ですので捨ててください。



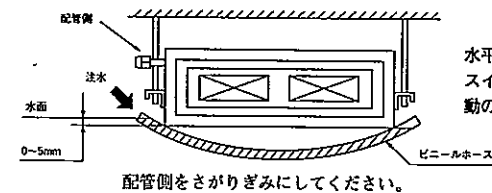
据付

〈吊りボルト固定方法〉
下図のいずれかの方法で吊りボルトを固定してください。



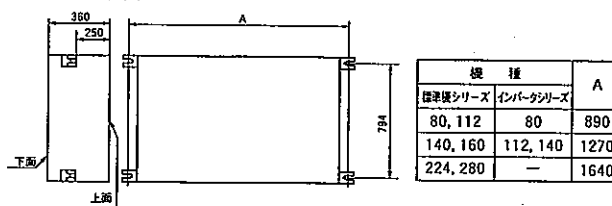
〈水平度の調整〉

水準器を使用するか、下図の要領で水平度の調整を行ってください。

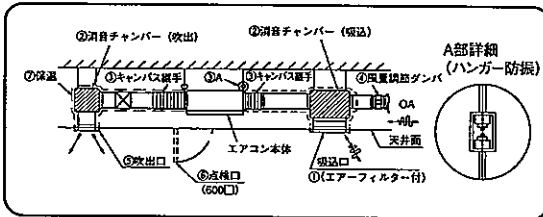


水平度がでていないとフロートスイッチの誤作動あるいは不動作の原因となります。

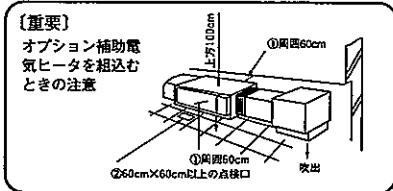
〈吊りボルト位置〉



④ダクト工事

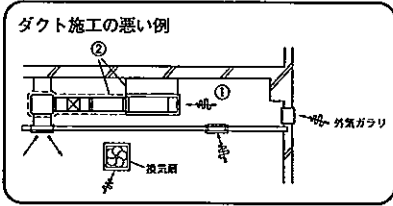


- エアコン本体にはエアフィルタが付属されていません。掃除の容易な吸込グリルに組込んでください。
- 消音チャンバーは据付ける室内の許容される騒音値によって取付けてください。特に低騒音とする必要がある場合は、さらに消音装置が必要です。(事務所、会議室などでは必ず取付けること)
- エアコン本体の振動が天井およびスラブに伝わらないようにダクトはキャンバス継手、エアコン本体は防振ゴムにより防振してください。
- OAダクトの接続口には、据付後の風量調節ができるよう、風量調節ダンパを取付けてください。
- 吹出口は室内全般に空気が流れるように位置、形状を選びさらに風量が調節出来る構造のものを使用してください。
- 天井面に点検口を必ず設けてください。電装品、モータ、機器品のサービス、熱交換器洗浄のために必要です。
- ダクトの保温施工は必ず実施し、ダクトへの結露を防止してください。保温材の厚さは65mm (JISA9501)です。



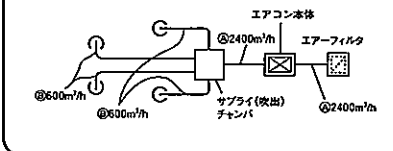
- ①可燃性の部分から周囲60cm、上方にあっては100cm(1メートル)以上の距離を保つこと。
- ②電気ヒータが有効に点検できる位置に1辺の長さが60cm以上の大きさの点検口を設けること。

〈重要〉
オプション補助電気ヒータを組込むときはパッケージエアコンを取付ける前に「火を使用する設備等の設置届」を作成し、所轄の消防署等に届出をおこない、審査又は検査を受けること。届出書は左記①②の他に防火対象物の案内図、設置する際の平面図、立体図、構造図、室内仕様表、付属設備図などの図面が必要です。



- ①吸込側ダクトを使用せず、天井内を吸込ダクトにすると換気扇の能力や外気がラリに吹きつける風の強さ、天候(雨の日など)等により天井内が高湿度となります。
- (イ) ユニットの外板に結露し天井に滴下するおそれがあります。
- ユニットは上表の空気条件及び風量限界内で使用してください。
- コンクリート建築などで新築の場合も天井内ダクトにしなくても湿度が高くなる場合があります。この場合はユニット全体をグラスウール(25mm)で保温してください。(金あみなどでグラスウールをおさえてください。)
- (ロ) ユニットの運転限界(例: 外温35°CDBのとき吸込空気温度24°CWB)をこえる場合も考えられ、圧縮機のオーバーロードなどのトラブルの原因となります。
- (ハ) 換気扇の能力、外気がラリに吹きつける風の強さによってユニットの送風量が多くなり使用制限をこえてしまうため熱交換器のドレンがドレンパンに流れず、外部に流れだすこともあり、(天井にドレンが滴下する) 水漏れの原因となります。
- ②ユニットとダクト、ユニットとスラブの防振をししないとダクトに振動が伝わり、天井と吹出口の間で振動音が出たり、スラブにユニットの振動が伝わる場合があります。必ず防振してください。

〈簡易的なダクト寸法の決め方〉
ダクトの単位長さ当たり摩擦抵抗を1Pa/mとして、ダクトは一辺が250mmのものを使用する方法を示します。140、60Hz定格風量の場合を例とします。



○ダクト抵抗の計算 (簡易的に下表の如く計算する)

風量	ダクト(mm×mm)
②部 2400m³/h (40m³/min)	250×580
①部 600m³/h (10m³/min)	250×190

直管部	長さ1m当り1Paで計算する1Pa/m
曲り部	曲り部1ヶ当り直管に直して3~4mとする
吹出部	25Paで計算する
チャンバ	1個で50Paで計算する
吸込グリル(フィルター付)	1個で40Paで計算する

〈簡易ダクト寸法選定図〉

風量	iPa/m	
	角ダクト	寸法
m³/h (m³/min)	(mm×mm)	
100	250×60	
200	250×90	
300	250×120	
400	250×140	
500	250×170	
600(10)	250×190	
800	250×230	
1,000	250×270	
1,200(20)	250×310	
1,400	250×350	
1,600	250×390	
1,800(30)	250×430	
2,000	250×470	
2,400	250×560	
3,000(50)	250×650	
3,500	250×740	
4,000	250×830	
4,500	250×920	
5,000	250×1000	
5,500	250×1090	
6,000(100)	250×1180	

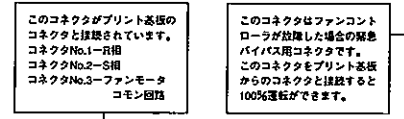
ファンコントローラ操作要領

○本機は電装品箱に内蔵のファンコントローラのボリュームにより、連続的に風量を調節することができます。ダクト側でのダンパ等による風量調節(視外静圧調整)は必要ありません。使用ポイントが運転可能風量範囲内となるように設定してください。(上記の風量限界を参考としてください。)

右図にファンコントローラの電装品箱内の位置と操作のしかたを示します。

○事前に別途技術資料にて発行されている送風機特性にてファンコントローラのボリュームNOを決定してください。

電気工事終了後の試運転に選定したボリュームNOを右図の要領に従って合わせて、所要風量が行っているか確認ください。

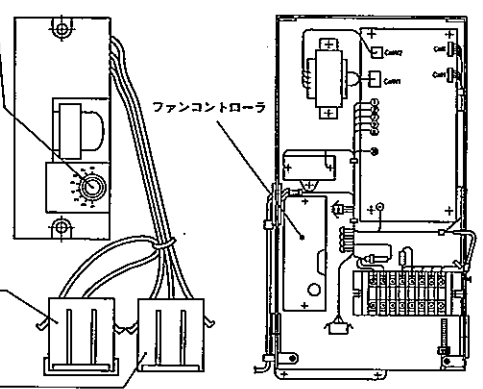


ファンコントローラの操作のしかた

注) ファンコントローラを操作する際は、充電部に触れる恐れがあるので必ず電源を切ってください。

電装品箱での位置

(140の電装品箱を代表例としています。ファンコントローラの位置は他の機種も同様です。)



高静圧ダクト 5-4/16

⑤冷媒配管

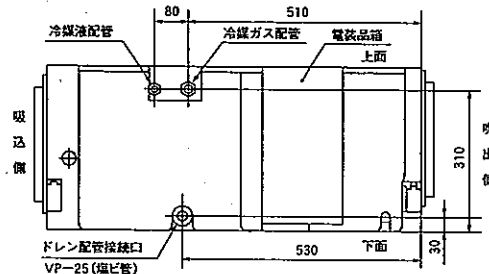
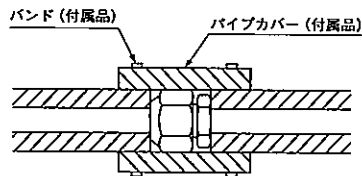
フレアナット締付トルク

- φ 6.35: 14~ 18(N・m),(1.4~1.8kg・m)
- φ 9.52: 34~ 42(N・m),(3.4~4.2kg・m)
- φ12.7: 49~ 61(N・m),(4.9~6.1kg・m)
- φ15.88: 68~ 82(N・m),(6.8~8.2kg・m)
- φ19.05: 100~120(N・m),(10~12kg・m)

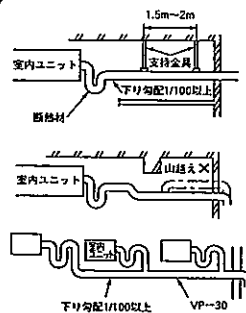
ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。

※液側配管は断熱しないと結露し水漏れします。

- ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けて外してください。(このときガスが出るがありますが、異常ではありません。)
- フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回りで3~4回転ねじ込み、2丁スパナ掛けてしっかりと締め付けてください。
- 配管は下記材質のものをご使用ください。
なお別売配管セットを使用されると便利です。
(材質) リン脱酸銅継目無銅管 (C1220T, JIS H3300)
- 室内機のフレア接続部は、ガス漏れチェック後、付属の継手用断熱材をかぶせ、両端を付属のバンドでしっかりと締め付けてください。
- 配管は、ねじったり・つぶしたりしないでください。
- 配管内はゴミ・切粉・水分が混入しないように施工してください。



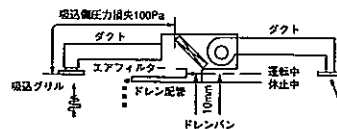
⑥ドレン配管



- ドレン配管は下り勾配 (1/50~1/100) とし途中山越えを作らないようにしてください。
- ドレン配管を接続する場合にユニット側の配管に力を加えないように注意して行いできる限りユニット近傍で配管を固定してください。
- ドレン管は市販の硬質塩ビパイプ一般管VP-25を使用してください。
- 複数台のドレン配管の場合左図のように、本体ドレン出口より100mm以上上下に集合配管がくるようにしてください。また集合管はVP-30以上を使用してください。
- 室内にある硬質塩ビパイプは必ず保温してください。

ご注意

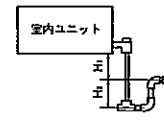
ダクトを接続し、送風機を運転するとユニット内部は大気圧に対して負圧となります。



例：上図の様に吸込グリル、エアフィルター、ダクトの吸込側の圧力損失が100Paあるとすれば運転中のドレン水位は停止中に比べ10mm上昇します。

〈トラップの施工〉

ドレン排出口が負圧となる位置にありますのでドレンパンの水位上昇による水漏れを防ぐため設計上、トラップを(配管工事のとき)1ヶ所設けてください。トラップは掃除が可能な構造とすることが必要です。下図に示すようにT形継手を使用してください。またトラップの高さも下図の様な寸法としてください。トラップはユニットの近くに設けてください。



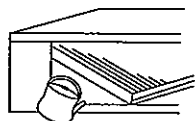
- ドレン配管の途中に1箇所、左図のようなトラップを設けてください。

H1=100mm又は送風機の静圧
H2=1/2 H1又は50~100mm

⑦排水テスト

ドレン配管工事が完了したら、水を流して確認してください。

- サイドパネルをはずし、ドレンパンに1000c.c.の水を徐々に入れ、スムーズに排水することを確認してください。又、水漏れのないことをご確認ください。



電気配線工事

電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

Ⓐ 電源・室内外接続線

お願い

室内外接続線は3心ケーブルを使用してください。

⚠ 警告

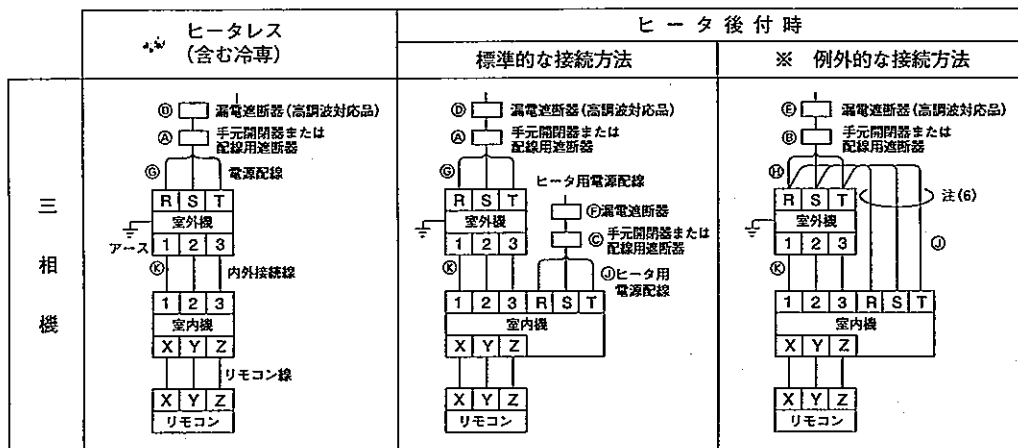
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。
- 電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及びこの据付工事説明書に従って施工し、必ず専用回路とし、かつ定格の電圧、ブレーカーを使用する。電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災等の原因になります。

⚠ 注意

- アース工事をを行う。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース線が不完全な場合は感電の原因になります。
- 電源には必ず漏電遮断器（高調波対応品）を取付ける。漏電遮断器が取付けられていないと感電の原因になります。
- 正しい容量のブレーカー（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）・配線用遮断器）を使用する。大きな容量のブレーカーを使用すると、故障や火災等の原因になります。

シングル機の結線

- ①電源の取り方は下表の接続パターンから選定し、行ってください。室内電源取り及び室内外別電源取りは原則できません。（ヒータ用電源は除く。）
※例外的な接続方法の場合は技術資料を参照のうえ、所轄の電力会社にご相談の上指示に従ってください。
- ②室内外接続線及びリモコン線は極性がありますので、必ず同一端子台番号間を接続してください。
- ③電源には必ず漏電遮断器を取付けてください。
漏電遮断器は、インバータ回路用遮断器（三菱電機製NV-Cシリーズまたは、その同等品）を選定してください。
- ④漏電遮断器が地絡保護専用の場合には、漏電遮断器と直列に手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）または、配線用遮断器が必要となります。



開閉器・配線仕様

〈シングル機：ヒータレス〉

- 注 (1) 配線こう長は、電圧降下2%とした場合を示します。表示の配線こう長を越える場合は、内線規程により配線太さを見直してください。
 (2) 室内外接続線③は総長70mまでとさせていただきます。
 (3) 衝撃波不動作形のブレーカーを使用してください。

高静圧ダクト 5-6/16

標準機・ヒータレス (含心冷機)	室外機	漏電遮断器 定格電流	手元開閉器		配線用遮断器 定格電流	電源配線 注(1)		内外接続線 注(1)		アース線	
			開閉器容量	B種ヒューズ		太さ×本数	こう長	太さ×本数	こう長	太さ	ネジ
					④						
三相	P80	20A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	φ2.0×3	33m	φ1.6×3		φ1.6	M5
	P112	30A,30mA,0.1sec以下	30A	30A	30A	5.5mm ² ×3	32m	φ1.6×3		φ1.6	M5
	P140-P160	40A,30mA,0.1sec以下	50A	40A	40A	5.5mm ² ×3	23m	φ1.6×3		φ2.0	M5
	P224	50A,100mA,0.1sec以下	60A	50A	50A	8.0mm ² ×3	24m	φ1.6×3	49m	5.5	M6
	P280	60A,100mA,0.1sec以下	60A	60A	60A	14.0mm ² ×3	34m	φ1.6×3	43m	5.5	M6

ハイパライン ヒータレス	室外機	漏電遮断器 定格電流	手元開閉器		配線用遮断器 定格電流	電源配線 注(1)		内外接続線 注(1)		アース線	
			開閉器容量	B種ヒューズ		太さ×本数	こう長	太さ×本数	こう長	太さ	ネジ
					④						
三相	VP80	20A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	φ2.0×3	33m	φ1.6×3		φ1.6	M5
	VP112	30A,30mA,0.1sec以下	30A	30A	30A	5.5mm ² ×3	23m	φ1.6×3		φ1.6	M5
	VP140-VP160	30A,30mA,0.1sec以下	30A	30A	30A	5.5mm ² ×3	23m	φ1.6×3		φ1.6	M5
	VP224	60A,100mA,0.1sec以下	60A	60A	60A	8.0mm ² ×3	24m	φ1.6×3	43m	5.5	M6
	VP280	60A,100mA,0.1sec以下	60A	60A	60A	14.0mm ² ×3	34m	φ1.6×3	43m	5.5	M6

〈シングル機：ヒータ後付時〉

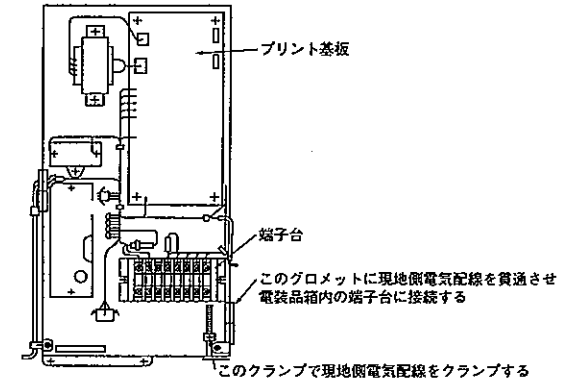
- 注(4) ④⑤⑥⑦の仕様については上表のヒータレスと同一です。
 (5) 配線こう長は、電圧降下2%とした場合を示します。表示の配線こう長を越える場合は、内線規程により配線太さを見直してください。
 ①の記載なき欄の配線こう長は50mです。
 (6) 室内外接続線⑧とヒータ用電源線⑨は必ず別ケーブルとしてください。
 (7) 224, 280は、例外的な接続方法はできません。

標準機・ヒータ後付時	室外機	漏電遮断器 定格電流		手元開閉器		配線用遮断器 定格電流	手元開閉器		配線用遮断器 定格電流	電源配線 注(5)		ヒータ用電源配線 注(5)		アース線	
		開閉器容量	B種ヒューズ	開閉器容量	B種ヒューズ		太さ×本数	こう長		太さ×本数	こう長	太さ	ネジ		
						④			⑤					⑥ 注(6)	
三相	P80	30A,30mA,0.1sec以下	15A,30mA,0.1sec以下	30A	30A	30A	15A	15A	15A	5.5mm ² ×3	23m	φ1.6×3	31m	φ1.6	M5
	P112	40A,30mA,0.1sec以下	0.1sec以下	50A	40A	40A	15A	15A	15A	5.5mm ² ×3	20m	φ1.6×3	26m	φ2.0	M5
	P140	50A		50A	50A	15A	15A	15A	8.0mm ² ×3	24m	φ1.6×3	22m	φ2.0	M5	
	P160	50A,30mA,0.1sec以下	20A,30mA,0.1sec以下	50A	50A	50A	30A	20A	20A	14.0mm ² ×3	35m	φ2.0×3	26m	φ2.0	M5
	P224	—	30A,30mA,0.1sec以下	—	—	—	30A	30A	30A	—	—	5.5×3	30m	5.5	M6
P280	—	—	—	—	—	30A	30A	30A	—	—	5.5×3	26m	5.5	M6	

ハイパライン ヒータ後付時	室外機	漏電遮断器 定格電流		手元開閉器		配線用遮断器 定格電流	手元開閉器		配線用遮断器 定格電流	電源配線 注(5)		ヒータ用電源配線 注(5)		アース線	
		開閉器容量	B種ヒューズ	開閉器容量	B種ヒューズ		太さ×本数	こう長		太さ×本数	こう長	太さ	ネジ		
						④			⑤					⑥ 注(6)	
三相	VP80	30A,30mA,0.1sec以下	15A,30mA,0.1sec以下	30A	15A	15A	15A	15A	15A	5.5mm ² ×3	23m	φ1.6×3	26m	φ1.6	M5
	VP112	40A,30mA,0.1sec以下	0.1sec以下	50A	40A	40A	15A	15A	15A	5.5mm ² ×3	18m	φ1.6×3	22m	φ2.0	M5
	VP140	50A		40A	40A	15A	15A	15A	8.0mm ² ×3	26m	φ1.6×3	22m	φ2.0	M5	
	VP160	50A,30mA,0.1sec以下	20A,30mA,0.1sec以下	50A	50A	50A	30A	20A	20A	14.0mm ² ×3	38m	φ2.0×3	26m	φ2.0	M5
	VP224	—	30A,30mA,0.1sec以下	—	—	—	30A	30A	30A	—	—	5.5×3	26m	5.5	M6
VP280	—	—	—	—	—	30A	30A	30A	—	—	5.5×3	26m	5.5	M6	

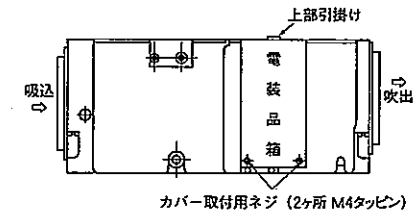
電装品箱位置及び電気配線接続

(1) 電装品箱位置



(2) 電装品箱カバーの取りはずし方

カバー下部のカバー取付用ネジ2本をはずして上部の引掛けをはずすとカバーがはずれます。



② リモコン

リモコンは別売です。

リモコンの据付

お願い 次の位置は避けてください。

- 1) 直射日光の当たる場所
- 2) 発熱器具の近く
- 3) 湿気が多い所・水の掛る所
- 4) 取付面に凸凹がある所

注意

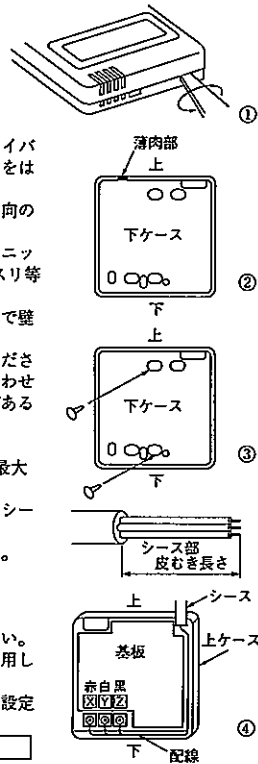
リモコンの上ケースを取り外した場合は、リモコンを据付けるまで、基板上にゴミ或いは水分等が付着しないように、梱装箱或いは梱包用袋内に入れて保護してください。

取付要領

露出取付

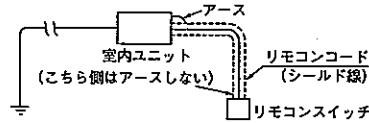
- ① リモコンケースをはずしてください。
● リモコン上部の凹部にマイナスドライバ等を差し込んで軽くねじり、ケースをはずします。
- ② リモコンコードの取出し方向は、上方向のみ可能です。
● リモコン下ケース側の上方薄内部をニッパー・ナイフ等で切り取った後、ヤスリ等でバリを取ってください。
- ③ リモコン下ケースを付属の木ねじ2本で壁に取り付けます。
- ④ リモコンコードを端子台に接続してください。室内機とリモコンの端子番号を合わせて接続してください。端子には極性があるので間違えると運転できません。
端子：①赤線、②白線、③黒線
リモコンコードは、0.3mm²(推奨)~最大0.5mm²以下としてください。また、リモコンケース内を通る部分はシース部を皮むきしてください。各配線の皮むき長さは下記の通りです。
黒：195mm
白：205mm
赤：215mm
- ⑤ 上ケースを元通りに取り付けてください。
- ⑥ リモコンコードをコードクランプを使用して壁等に固定します。
- ⑦ 室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。

⑧ 機能の設定の項をご覧ください。



リモコンコードを延長する場合の注意 ▶ 最大総延長600m

- コードは必ずシールド線を使用してください。
● 全形式：0.3mm²×3心【MVVS3C（京阪電線）】
注(1) 延長距離が100mを超える場合は、下記のサイズに変更してください。但し、リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm²以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズ変更してください。
100~200m以内.....0.5mm²×3心
300m以内.....0.75mm²×3心
400m以内.....1.25mm²×3心
600m以内.....2.0mm²×3心
● シールド線は必ず片側のみをアースしてください。



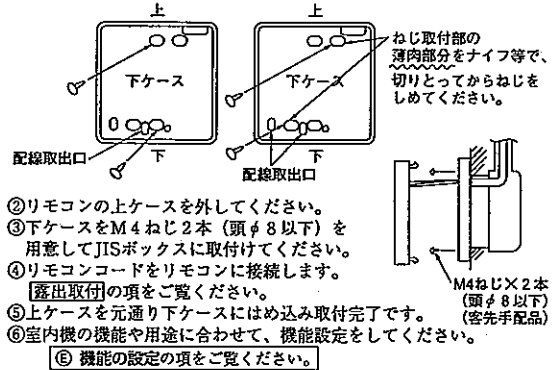
埋込取付

- ① JISボックスとリモコンコード（延長の場合はシールド線を必ず使用）をあらかじめ埋込んでおきます。

【使用可能JISボックス】

- JIS C 8336
- 1個用スイッチボックス
- 2個用スイッチボックス

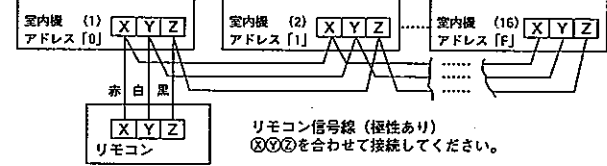
1個用スイッチボックスの場合 2個用スイッチボックスの場合



- ② リモコンの上ケースを外してください。
- ③ 下ケースをM4ねじ2本（頭φ8以下）を用意してJISボックスに取り付けてください。
- ④ リモコンコードをリモコンに接続します。
露出取付の項をご覧ください。
- ⑤ 上ケースを元通り下ケースにはめ込み取付完了です。
- ⑥ 室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。
⑧ 機能の設定の項をご覧ください。

③ 1リモコンによる複数台室内機制御

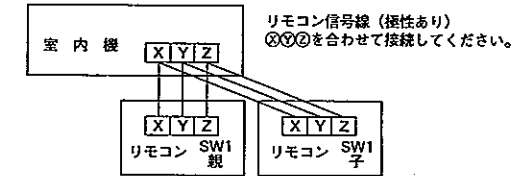
- 室内ユニット最大16台まで接続可能です。
① 各室内ユニット間を3心のリモコン線にて渡り配線してください。延長リモコン線については、前記の項【リモコンコードを延長する場合の注意】をご覧ください。
② 室内基板上的ロータリースイッチSW1により、リモコン通信アドレスを重複しないよう「O」~「F」に設定してください。



- ③ 電源投入後、リモコンの【エアコンNo】を押すと室内機アドレスが表示されますので、▲▼ボタンで接続されている室内機アドレスがリモコンに表示されることを、必ず確認してください。

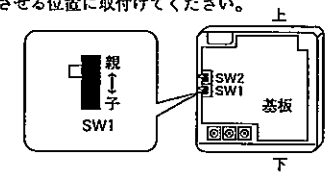
④ 複数リモコン使用時の親子設定

- 室内ユニット1台（又は1グループ）に対して最大2個までのリモコンを接続できます。
① 子リモコンのリモコン連絡線（3心）は室内ユニットから取る方法と親リモコンからの渡り配線による方法があります。



- ② 子リモコンの切換スイッチSW1を子に設定してください。工場出荷時は親設定です。（注）リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。親リモコンを室温検知させる位置に取り付けてください。

スイッチ	設定	機能の内容
SW 1	親	親リモコン
	子	子リモコン



(E) 機能の設定

●本機の名機能は、リモコンと室内機を接続した際に、標準的な設定である、下表「○」印の項目に、自動的に設定されます。
従って、新たに設定をする必要はありません。
但し、「○」印の初期設定を変更したい場合は、その機能番号の項目のみ、設定をしてください。
設定方法は、リモコンの据付説明書をご覧ください。
●の項目は、本機には機能がありませんので、設定しないでください。

(1) リモコン機能

機能番号	機能内容	設定内容	初期設定
01	ワット数設定	昇降無効 有効50Hz地区 有効60Hz地区	<input type="checkbox"/>
02	自動運転設定	自動運転有効 自動運転無効	<input type="checkbox"/>
03	温度設定	温度設定有効 温度設定禁止	<input type="checkbox"/>
04	運転切換	運転切換有効 運転切換禁止	<input type="checkbox"/>
05	運転/停止	運転/停止有効 運転/停止禁止	<input type="checkbox"/>
06	風量調整	風量調整有効 風量調整禁止	<input type="checkbox"/>
07	風向調整	風向調整有効 風向調整禁止	<input type="checkbox"/>
08	タイマー	タイマー有効 タイマー禁止	<input type="checkbox"/>
09	リモコン設定	リモコン有効 リモコン無効	<input type="checkbox"/>
10	停電補償設定	停電補償無効 停電補償有効	<input type="checkbox"/>
11	換気設定	換気接続なし 換気運転 換気非運転	<input type="checkbox"/>
12	温度範囲設定	表示変更有効 表示変更無効	<input type="checkbox"/>
13	室内ファン速調	ファン3速 ファン2速 ファン1速	<input type="checkbox"/>
14	冷専/ヒートポンプ	ヒートポンプ 冷専	※
15	外部入力設定	個別運転 全合同一運転	<input type="checkbox"/>
16	エラー表示設定	エラー表示有り エラー表示無し	<input type="checkbox"/>
17	モード制御設定	モード4位置停止 モード4位置停止	<input type="checkbox"/>

(2) 室内機能

機能番号	機能内容	設定内容	初期設定
01	高天井設定	標準 高天井	<input type="checkbox"/>
03	ファンオフ設定	表示しない 180時間後 600時間後 1000時間後 1000時間→停止	<input type="checkbox"/>
04	モード制御設定	モード4位置停止 モード4位置停止	<input type="checkbox"/>
05	外部入力切換	リモコン入力 リモコン無効	<input type="checkbox"/>
06	運転許可/禁止	通常運転 有効	<input type="checkbox"/>
07	暖房室温補正	通常運転 室温補正+3℃	<input type="checkbox"/>
08	暖房ファン制御	強風 停止→弱風	<input type="checkbox"/>
09	凍結防止温度	2.5℃ 1℃	<input type="checkbox"/>
10	凍結防止制御	ファン制御有効 ファン制御無効	<input type="checkbox"/>
11	電気集塵機	ファン制御無効 ファン制御有効	<input type="checkbox"/>
12	加湿器制御	ドレンモーター運転 ドレンモーター無効	<input type="checkbox"/>

注1:「※」印の初期設定は、接続される室外機の機種(ヒートポンプ/冷専機)により、自動判別されます。

(G) 冷房試運転操作

リモコンを次の手順で操作してください。

- 冷房試運転の開始
 - 「運転/停止」ボタンを押して、運転します。
 - 「運転切換」ボタンにより、「冷房」を選択します。
 - 「試運転」ボタンを3秒以上押します。
「項目」で選択 → 「セット」で決定 → 「冷房試運転」表示が切り替わります。
 - 「冷房試運転」表示で、「セット」ボタンを押すと、冷房試運転を開始します。
表示は、「冷房試運転」となります。
- 冷房試運転の解除
「運転/停止」ボタン又は、温度設定「/」ボタンを押すと、冷房試運転を終了します。
「冷房試運転」表示が消灯します。

運転データの確認

リモコン操作により、運転データの確認ができます。

- 「点検」ボタンを押します。
「項目」で選択 → 「セット」で決定 → 「運転データ表示」表示が切り替わります。
- 「運転データ表示」表示で、「セット」ボタンを押します。
表示が「室内00▲」(点滅)となります。
▲▼ボタンで、表示したい室内機番号を選びます。
(室内機が一台しか接続されていない時は、室内番号は切り換わりません。)
- 「セット」により確定します。
(室内機番号が点滅から点灯に変わります。)
「データ読込中」(データを読込む間点滅表示)
↓
「運転データ」表示され、01番のデータが表示されます。
- ▲▼ボタンにより、現在の運転データを01番より順に表示します。
表示される項目は右記の通りです。
※機種により該当するデータがないものは、その項目は表示されません。
- 室内機を変更する場合は、「エアコンNo.」ボタンを押すことにより、室内機選択表示に戻ります。
- 「運転/停止」ボタンを押すと、終了します。

設定の途中で、「セット」ボタンを押すと、一回前の設定画面に戻ります。

(H) 制御の切換

(注) 囲みは、工場出荷時の設定

項目	短絡	開放	設定	機能	初期設定
J-1	短絡	遠方運転入力 (CaT) をレベリング	SW9-1	オートリフトパネルの降下長さの設定	OFF
J-2	短絡	遠方運転入力 (CaT) をレベリング	SW9-2	OFF	OFF
J-2	開放	暖房サーモOFF時強風	SW9-3	応急運転 (基準上のコネクタCnも同時に抜く)	ON
J-3	短絡	通常運転	SW9-4	OFF	OFF
J-3	開放	遠方運転入力 (CaT) により運転制御	SW9-4	ON	高天井制御 (ファン回転数アップ)
J-4	短絡	---	---	---	---
J-4	開放	暖房室温検知補正+3℃	---	---	---

番号	データ項目
01	運転モード
02	設定温度
03	吸込温度
04	内熱交温度 1
05	内熱交温度 2
07	室内ファン速度
11	室内運転時間
21	外気温度
22	外熱交温度 1
23	外熱交温度 2
24	運転Hz
26	低圧
27	吐出管温度
28	ドレン下温度
29	CT電流
31	室外ファン速度
32	静音モード 有効/無効
33	63H2 ON/OFF
34	63H1 ON/OFF
35	デフロスト ON/OFF
36	コック運転時間
37	膨張弁開度 1
38	膨張弁開度 2

(F) ドレンポンプ運転操作

ドレンポンプ運転がリモコン操作により可能です。
リモコンを次の手順で操作してください。

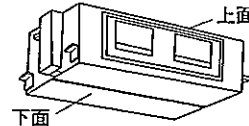
- ドレンポンプ強制運転の開始
 - 「試運転」ボタンを3秒以上押します。
「項目」で選択 → 「セット」で決定 → 「冷房試運転」表示が切り替わります。
 - 「冷房試運転」表示の時に、「」ボタンを一度押し、「ドレンポンプ運転」表示させます。
 - 「セット」ボタンを押すと、ドレンポンプ運転を開始します。
表示: 「ドレンポンプ運転」 → 「セット」で停止
- ドレンポンプ運転の解除
 - 「セット」ボタン又は、「運転/停止」ボタンを押すと、ドレンポンプ強制運転を停止します。
エアコンは停止状態となります。

セゾンエアコン 据付説明書・電気配線工事説明書

FDUP 801CF, 1401CF, 2241CF

PJD012D017

本機は制御箱内に内蔵のファンコントローラのボリュームにより連続的に風量を調節することができます。使用ポイントが下記に示す風量限界内に入るよう調節をしてください。(ファンコントローラの操作要領は下面にあります。) 本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。電気工事の方法は、裏面をご覧ください。室外ユニットの据付方法及び冷媒配管工事の方法は、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。リモコンは別売です。



この説明書が貼付してある面が下面となります。

工事完了後、これだけは再チェック願います。

チェック項目	不良だと	チェック欄
室内外のユニットの取り付けはしっかりしていますか。	落下・振動・騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体に表示の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
顔配線・顔配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

〈お願い事項〉

- 取扱説明書を見ながら、お客様に実際に操作していただき、正しい運転のしかた(特にエアフィルタの清掃、運転操作のしかた、温度調節の方法)をご説明ください。
- 長時間使用しない時は、電源スイッチを切るようお客様にご説明ください。電源スイッチを入れたままにしておきますと、クランクケースヒータ等に通電されエアコンを使用しなくても電力を消費することになります。

据付のまえに

○据付はこの据付説明書に従って正しく行なってください。
○工事前画にあっておりますか。

機種・電源仕様

確認してください

配管・配線・小物部品

付
属
品

① ドレン関係

1	ホースクランプ		1個	ドレン配管用
---	---------	--	----	--------

② フレアナット部断熱用

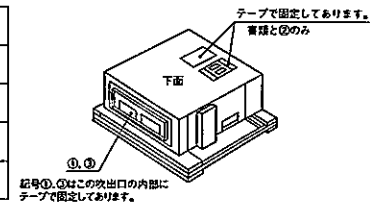
1	パイプカバー		1個	ガス側用
2	パイプカバー		1個	液側用
3	バンド		4個	

2241CFには付属していません。(ロー付仕様のため)

③ リモートサーミスタ

1	サーミスタボックス		1個	
2	配線		1本	
3	両面テープ付インシュレーション		1個	サーミスタボックス固定用
4	バンド		5本	配線結束用
5	木ネジ		2本	サーミスタボックス固定用

付属品収納場所 (梱包時)



高静圧ダクト 5-10/16

据付場所の選定

(室内機)

据付&サービススペース

(ここに示す据付&サービススペース、空気条件、風量は必ず守ってください。)

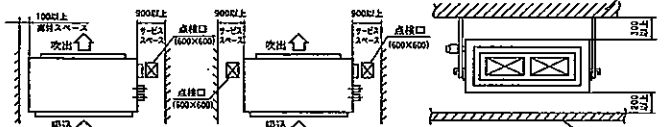
平面図 (単位: mm)

801CF, 1401CF

2241CF

平面図 (単位: mm)

全シリーズ



(側面サービス)

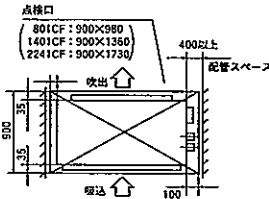
(側面、下面サービス共)

次に示すような方法が可能です。
左記に示す条件が満たされない時には

平面図 (単位: mm)

全シリーズ

正面図については左記と同様とします。



1. 据付場所は下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。

- 冷風が十分行きわたる所。
- 室外への配管、配線のしやすい所。
- ドレン排水が完全にできる所。ドレン勾配のとれる所。
- 吸込口、吹出口に風の障害のない所。
- 周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80%以下の所。
(高湿度の所に据付ける場合は本体の断熱等露付に対する配慮をしてください。)

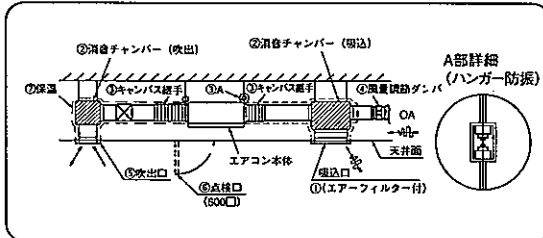
2. 据付ようとする場所がユニットの重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われるら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。

空気条件・風量

(50Hz/60Hz)

	定格風量(m ² /mm)	吸込空気温度
801CF	8.5/8.5	20℃DB~40℃DB くわしくは弊社発行 の技術資料を参照 願います。
1401CF	14/14.5	
2241CF	22/21.5	

ダクト工事



- ①エアコン本体にはエアフィルタが付属されていません。
掃除の容易な吸込グリルに組込んでください。
- ②消音チャンバーは据付ける室内の許容される騒音値によって取付けてください。
特に低騒音とする必要がある場合は、さらに消音装置が必要です。(事務所、会議室などでは必ず取付けること)
- ③エアコン本体の振動が天井およびスラブに伝わらないようにダクトはキャンバス継手、エアコン本体は防振ゴムにより防振してください。
- ④OAダクトの接続口には、据付後の風量調節ができるよう、風力調節ダンパを取付けてください。
- ⑤吹出口は室内全般に空気が流れるように位置、形状を選びさらに風量が調節出来る構造のものを使用してください。
- ⑥天井面に点検口を必ず設けてください。電装品、モータ、機能品のサービス、熱交換器洗浄のために必要です。
- ⑦ダクトの保温施工は必ず実施し、ダクトへの結露を防止してください。
保温材の厚さは65mm (JISA 9501) です。

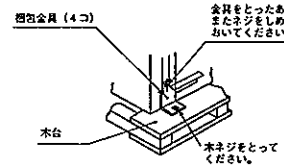
ユニットの搬入、据付

搬入

- 搬入時はできるだけ据付場所の近くまで梱包のまま搬入してください。
- 解体して搬入する場合、ユニットを傷つけないよう搬入してください。

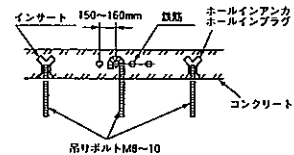
(梱包金具について)

梱包金具(4コ)は不要ですので捨ててください。



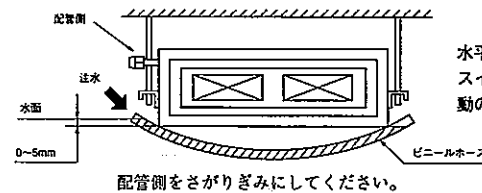
据付

吊りボルト固定方法
下図のいずれかの方法で吊りボルトを固定してください。



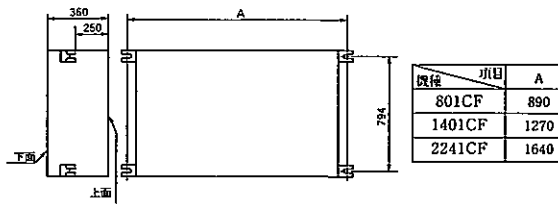
水平度の調整

水平器を使用するか、下図の要領で水平度の調整を行なってください。

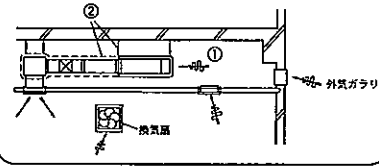


水平度がでないだとフロートスイッチの誤作動あるいは不動作の原因となります。

吊りボルト位置



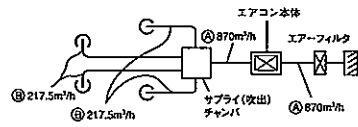
ダクト施工の悪い例



- ①吸込側ダクトを使用せず、天井内を吸込ダクトにすると換気能力や外気ガラーに吹きつける風の強さ、天候（雨の日など）等により天井内が高湿度となります。
- (イ) ユニットの外板に結露し天井に滴下するおそれがあります。
ユニットは「**取付場所の選定**」項に書かれている空気条件・風量で使用してください。
コンクリート建築などで新築の場合も天井内ダクトにしないでも湿度が高くなる場合があります。
この場合はユニット全体をグラスウール（25mm）で保温してください。（金あみなどでグラスウールをおさえてください。）
- (ロ) ユニットの運転限界をこえる場合も考えられ、圧縮機のオーバーロードなどのトラブルの原因となります。
- (ハ) 換気能力、外気ガラーに吹きつける風の強さによってユニットの送風量が多くなり使用制限をこえてしまうため熱交換器のドレンがドレンパンに流れず、外部に流れだすこともあり、（天井にドレンが滴下する）水滴の原因となります。
- ②ユニットとダクト、ユニットとスラブの防振をしないとダクトに振動が伝わり、天井と吹出口の間で振動音が出たり、スラブにユニットの振動が伝わる場合があります。必ず防振してください。

〈簡易的なダクト寸法の決め方〉

ダクトの単位長さ当り摩擦抵抗を 1Pa/m (0.1mmAq/m) として、ダクトは一辺が250mmのものを使用する場合の方法を示します。
1401CF、60Hz定格風量の場合を例とします。



○ダクト抵抗の計算（簡便的に下表の如く計算する）

	風 量	ダクト(mm×mm)
①部	870m³/h (14.5m³/min)	250×250
②部	217.5m³/h (3.625m³/min)	250×100

部	計算方法
直 管 部	長さ1m当りPa(0.1mmAq)で計算する1Pa/m(0.1mmAq/m)
曲 り 部	曲り部1ヶ当り直管に直して3~4mとする
吹 出 部	25Pa(2.5mmAq)で計算する
チ ャ ン バ	1個で50Pa(5mmAq)で計算する
吸込グリル(フィルター付)	1個で40Pa(4mmAq)で計算する

〈簡易ダクト寸法選定図〉

風 量	1Pa/m (0.1mmAq/m)	
	ダクトの形	寸 法
m³/h (m³/min)	角ダクト	(mm×mm)
100		250×60
200		250×90
②部 → 217.5		250×100
300		250×120
400		250×140
435		250×150
500		250×170
600 (10)		250×190
800		250×230
①部 → 870		250×250
1,000		250×270
1,200 (20)		250×310
1,400		250×350
1,600		250×390
1,800 (30)		250×430
2,000		250×470

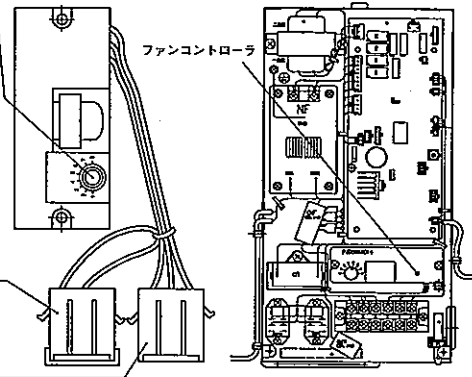
ファンコントローラ操作要領

- 本気は電装品箱に内蔵のファンコントローラのボリュームにより、連続的に風量を調節することができます。
ダクト側でのダンパ等による風量調節（機外静圧調整）は必要ありません。
使用ポイントが運転可能風量範囲内となるように設定してください。（上記の風量限界を参考としてください。）
右図にファンコントローラの電装品箱内の位置と操作のしかたを示します。
- 事前に別途技術資料にて発行されている送風特性にてファンコントローラのボリュームNo.を選定してください。
電気工事終了後の試運転に選定したボリュームNo.を右図の要領に従って合わせて、所要風量がでているかご確認ください。

このつまみを回してください。
(ボリュームNo.1.~8.で制御)

このコネクタがプリント基板のコネクタと接続されています。
コネクタNo.1-R組
コネクタNo.2-S組
コネクタNo.3-ファンモータ
コモン回路

このコネクタはファンコントローラが故障した場合の緊急バイパス用コネクタです。
このコネクタをプリント基板からのコネクタと接続すると100%運転ができます。



ファンコントローラの操作のしかた

注) ファンコントローラを操作する際は、充電部に触れる恐れがあるので必ず電源を切ってください。

電装品箱

高静圧ダクト 5-12/16

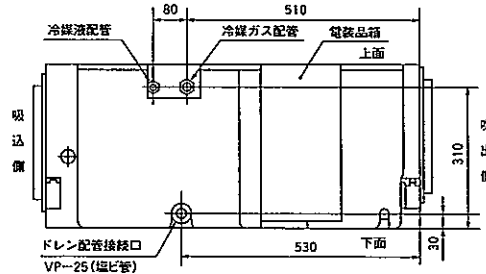
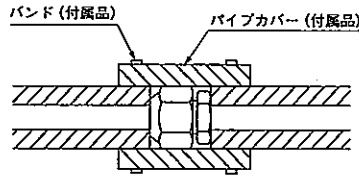
フレアナット締付トルク

- φ 6.35: 14~ 18 (N・m), (1.4~1.8kg・m)
- φ 9.52: 34~ 42 (N・m), (3.4~4.2kg・m)
- φ12.7: 49~ 61 (N・m), (4.9~6.1kg・m)
- φ15.88: 68~ 82 (N・m), (6.8~8.2kg・m)
- φ19.05: 100~120 (N・m), (10~12kg・m)

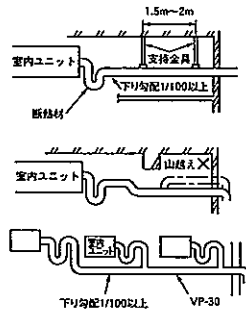
ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。

※液側配管は断熱しないと結露し水漏れします。

- ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けて外してください。(このときガスが出るがありますが、異常ではありません。)
- フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3~4回転ねじ込み、2丁スパナ掛けでしっかりと締め付けてください。
- 配管は下記材質のものをご使用ください。
なお別売配管セットを使用されると便利です。
(材質) リン脱酸銅線目無銅管 (C1220T, JIS H3300)
- 室内機のフレア接続部は、ガス漏れチェック後、付属の継手用断熱材をかぶせ、両端を付属のバンドでしっかりと締め付けてください。
- 配管は、ねじったり・つぶしたりしないでください。
- 配管内はゴミ・切粉・水分が混入しないように施工してください。

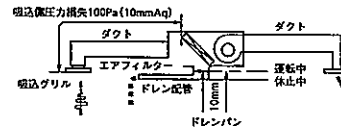


ドレン配管



- ドレン配管は下り勾配(1/50~1/100)とし途中山越えを作らないようにしてください。
- ドレン配管を接続する場合にユニット側の配管に力を加えないように注意して行いできる限りユニット近傍で配管を固定してください。
- ドレン管は市販の硬質塩ビパイプ一般管VP-25を使用してください。
- 複数台のドレン配管の場合左図のように、本体ドレン出口より100mm以上下に集合配管がくるようにしてください。また集合管はVP-30以上を使用してください。
- 室内にある硬質塩ビパイプは必ず保温してください。

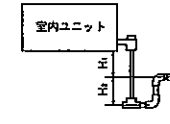
ご注意 ダクトを接続し、送風機を運転するとユニット内部は大気圧に対して負圧となります。



例: 上図の様に吸込グリル、エアフィルター、ダクトの吸込側の圧力損失が100Pa(10mmAq) であるとすれば運転中のドレン水位は停止中に比べ10mm上昇します。

＜トラップの施工＞

ドレン排出口が負圧となる位置にありますのでドレンパンの水位上昇による水もれを防ぐため設計上、トラップを(配管工事のとき)1ヶ所設けてください。トラップは掃除が可能な構造とすることが必要です。下図に示すようにT形継手を使用してください。またトラップの高さも下図の様な寸法としてください。トラップはユニットの近くに設けてください。



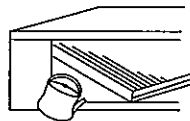
- ドレン配管の途中に1箇所、左図のようなトラップを設けてください。

H1=100mm又は送風機の静圧
H2= $\frac{1}{2}$ H1又は50~100mm

排水テスト

ドレン配管工事が完了したら、水を流して確認してください。

- サイドパネルをはずし、ドレンパンに1000ccの水を徐々に入れ、スムーズに排水することを確認してください。又、水漏れのないことをご確認ください。



電気配線工事

電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

① 電源・室内外接続線

お願い

室内外接続線は3心ケーブルを使用してください。

⚠ 警告

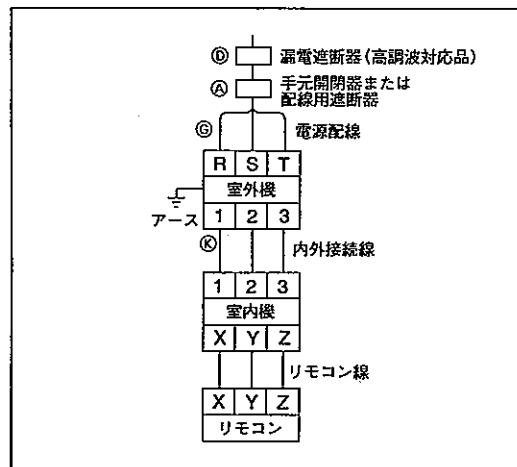
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。
- 電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及びこの据付工事説明書に従って施工し、必ず専用回路とし、かつ定格の電圧、ブレーカーを使用する。電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災等の原因になります。

⚠ 注意

- アース工を行う。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース線が不完全な場合は感電の原因になります。
- 電源には必ず漏電遮断器（高調波対応品）を取付ける。漏電遮断器が取付けられていないと感電の原因になります。
- 正しい容量のブレーカー（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）・配線用遮断器）を使用する。大きな容量のブレーカーを使用すると、故障や火災等の原因になります。

シングル機の結線

- ①電源の取り方は下表の接続パターンから選定し、行ってください。室内電源取り及び室内外別電源取りは原則できません。（ヒータ用電源は除く。）
- ②室内外接続線及びリモコン線は極性がありますので、必ず同一端子台番号間を接続してください。
- ③電源には必ず漏電遮断器を取付けてください。
漏電遮断器は、インバータ回路用遮断器（三菱電機製NV-Cシリーズまたは、その同等品）を選定してください。
- ④漏電遮断器は、高調波対応品を使用してください。



開閉器・配線仕様

- 注 (1) 配線こう長は、電圧降下2%とした場合を示します。表示の配線こう長を越える場合は、内線規程により配線太さを見直してください。
 (2) 室内外接続線⑧は総長70mまでとしてください。
 (3) 衝撃波不動作形のブレーカーを使用してください。
 (4) 電源には必ず漏電遮断器を取付けてください。漏電遮断器は、インバータ回路用遮断器(三菱電機製NV-Cシリーズまたは、その同等品)を選定してください。
 (5) 漏電遮断器が地絡保護専用の場合には、漏電遮断器と直列に手元開閉器(開閉器+B種ヒューズ)または、配線用遮断器が必要となります。

室外機	漏電遮断器 定格電流 ⑦	手元開閉器		配線用遮断器 定格電流	電源配線 法(1)		内外接続線 法(1)		アース線	
		開閉器容量	B種ヒューズ		太さ×本数	こう長	太さ×本数	こう長	太さ	ネジ
三相 P80	20A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	φ2.0×3	33m	φ1.6×3		φ1.6	M5
P140	40A,30mA,0.1sec以下	50A	40A	40A	5.5mm ² ×3	23m	φ1.6×3		φ2.0	M5
P224	50A,100mA,0.1sec以下	60A	50A	50A	8.0mm ² ×3	24m	φ1.6×3	49m	5.5	M6

⑧ リモートサーミスタ取付要領

本機は全外気吸込仕様機ですので、室内温度を検知出来るリモートサーミスタを付属しています。以下に示す要領に従って付属のリモートサーミスタを室内の温度が適確に検知出来る場所に取り付けてください。リモートサーミスタを取り付けないとエラー表示が出て運転が出来ません。

取付要領

1. 取付位置の選定

ボックス内にはサーミスタが内蔵されておりますので、ボックス取付位置は下記事項を考慮して決定してください。

- 空調する部屋の適当な温度が検知できる場所
- 直射日光を受けない場所
- 他の熱源の影響を受けない場所
- エアコンの吹出空気が直接当たらない場所
- ドアの開閉等で、侵入外気が直接当たらない場所
- 部屋の温度との温度差が大きな壁面(コンクリート壁等)には取り付けないでください。

2. 取付及び配線

- ①サーミスタボックスカバーとボックスを分割してください。
(カバーははめ込式となっております。)
- ②2芯ケーブルの取出口は上部です。
- ③ボックスを壁に直付の場合は、付属の木ねじまたは両面テープで固定してください。
ただし両面テープの場合は壁の形状や材質によりはがれやすいので、できる限り木ねじを使用してください。
- ④ボックスを固定したら、2芯ケーブルの片側を適当な長さ(本機との取合)に調整・切断し、先端を皮むき後ボックスの端子盤に1本ずつ確実に接続してください。(極性はありません。)
- ⑤サーミスタボックスのカバーをはめ込んでください。
- ⑥図3に示す箇所のコネクタにサーミスタボックスのコネクタを接続してください。

【サーミスタボックス】

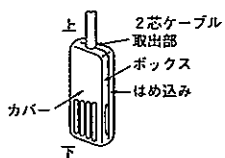


図1

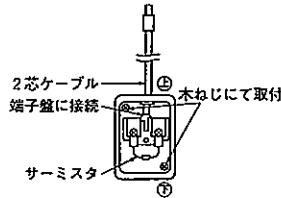


図2

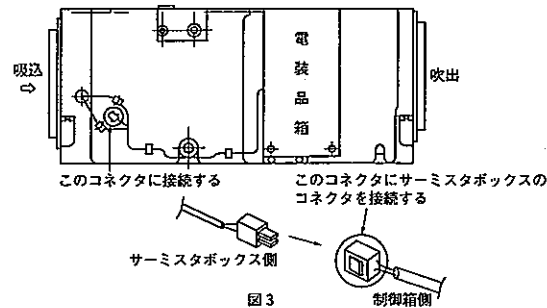
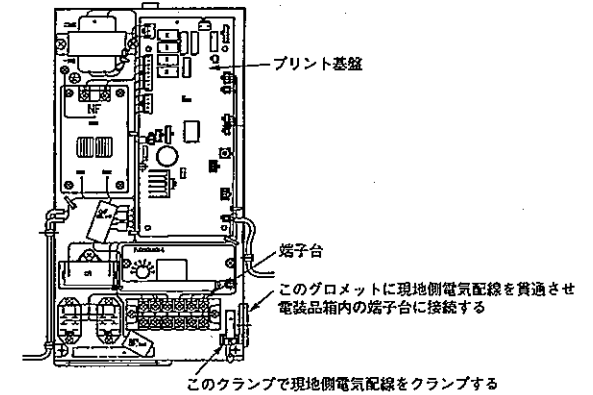


図3

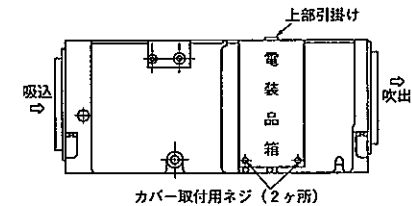
電装品箱位置及び電気配線接続

(1) 電装品箱位置



(2) 電装品箱カバーの取りはずし方

カバー下部のカバー取付用ネジ2本をはずして上部の引掛けをはずすとカバーがはずれます。



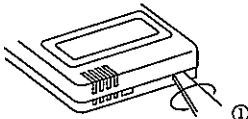
③ リモコン

リモコンは別売です。

リモコンの据付

お願い 次の位置は避けてください。

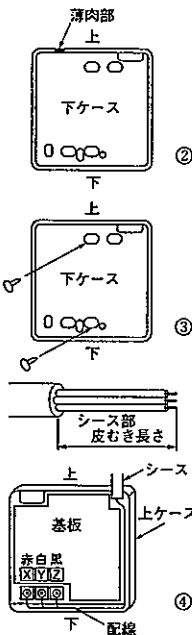
- 1) 直射日光の当たる場所
- 2) 発熱器具の近く
- 3) 湿気の多い所・水の掛る所
- 4) 取付面に凸凹がある所



取付要領

露出取付

- ① リモコンケースをはずしてください。
● リモコン上部の凹部にマイナスドライバ等を差し込んで軽くねじり、ケースをはずします。
- ② リモコンコードの取出し方向は、上方向のみ可能です。
● リモコン下ケース側の上方薄肉部をニッパー・ナイフ等で切り取った後、ヤスリ等でバリを取ってください。
- ③ リモコン下ケースを付属の木ねじ2本で壁に取り付けます。
- ④ リモコンコードを端子台に接続してください。室内機とリモコンの端子番号を合わせて接続してください。端子には極性があるので間違えると運転できません。
端子：⑧赤線、⑨白線、⑩黒線
リモコンコードは、0.3mm²(推奨)~最大0.5mm²以下としてください。
また、リモコンケース内を通る部分はシース部を皮むきしてください。
各配線の皮むき長さは下記の通りです。
黒：195mm
白：205mm
赤：215mm
- ⑤ 上ケースを元通りに取り付けてください。
- ⑥ リモコンコードをコードクランプを使用して壁等に固定します。
- ⑦ 室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。

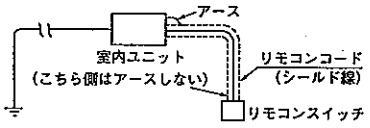


⑧ 機能の設定の項をご覧ください。

リモコンコードを延長する場合の注意 ▶ 最大総延長600m

コードは必ずシールド線を使用してください。
● 全形式：0.3mm²×3心 [MVVS3C (京阪電線)]
注(1)延長距離が100mを超える場合は、下記のサイズに変更してください。但し、リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm²以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズ変更してください。
100~200m以内.....0.5mm²×3心
300m以内.....0.75mm²×3心
400m以内.....1.25mm²×3心
600m以内.....2.0mm²×3心

● シールド線は必ず片側のみをアースしてください。

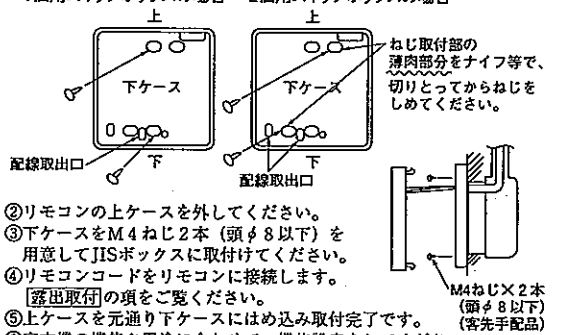


埋込取付

① JISボックスとリモコンコード
(延長の場合はシールド線を必ず使用)をあらかじめ埋込んでおきます。

〔使用可能JISボックス〕

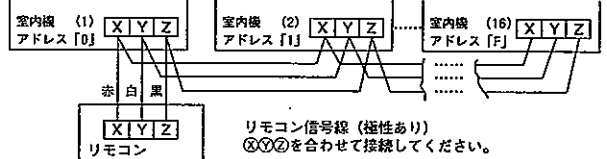
- JIS C 8336
 - 1 個用スイッチボックス
 - 2 個用スイッチボックス
- 1 個用スイッチボックスの場合 2 個用スイッチボックスの場合



⑤ 機能の設定の項をご覧ください。

④ 1リモコンによる複数台室内機制御

室内ユニット最大16台まで接続可能です。
① 各室内ユニット間を3心のリモコン線にて渡り配線してください。
延長リモコン線については、前記の項〔リモコンコードを延長する場合の注意〕をご覧ください。
② 室内基板上的ロータリースwitch SW2により、リモコン通信アドレスを重複しないよう「O」~「F」に設定してください。

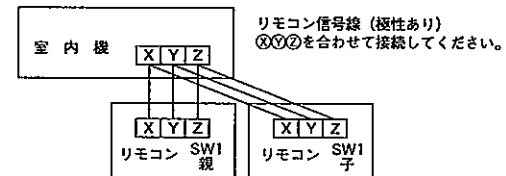


③ 電源投入後、リモコンの「エアコンNo」を押すと室内機アドレスが表示されますので、▲▼ボタンで接続されている室内機アドレスがリモコンに表示されることを、必ず確認してください。

⑤ 複数リモコン使用時の親子設定

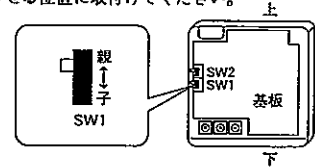
室内ユニット1台 (又は1グループ) に対して最大2個までのリモコンを接続できます。

① 子リモコンのリモコン連絡線 (3心) は室内ユニットから取る方法と親リモコンからの渡り配線による方法があります。



② 子リモコンの切換スイッチSW1を子に設定してください。
工場出荷時は親設定です。
(注) リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。
親リモコンを室温検知させる位置に取付けてください。

スイッチ	設定	機能の内容
SW 1	親	親リモコン
	子	子リモコン



F 機能の設定

- 本機の名機能は、リモコンと室内機を接続した際に、標準的な設定である、下表「○」印の項目に、自動的に設定されます。従って、新たに設定をする必要はありません。但し、「□」印の初期設定を変更したい場合は、その機能番号の項目のみ、設定をしてください。設定方法は、リモコンの据付説明書をご覧ください。
- の項目は、本機には機能がありませんので、設定しないでください。

(1) リモコン機能

機能番号	機能内容	設定内容	初期設定
01	クワイエット設定	静音設定 有効50Hz地区 有効60Hz地区	○
02	自動運転設定	自動運転有効 自動運転禁止	○
03	温度設定	温度設定有効 温度設定禁止	○
04	運転切換	運転切換有効 運転切換禁止	○
05	運転/停止	運転/停止有効 運転/停止禁止	○
06	風量調整	風量調整有効 風量調整禁止	○
07	風向調整	風向調整有効 風向調整禁止	○
08	タイマ	タイマ有効 タイマ禁止	○
09	リモコン設定	リモコン有効 リモコン禁止	○
10	停電補償設定	停電補償有効 停電補償無効	○
11	換気設定	換気接続なし 換気運転 換気非運転	○
12	温度範囲設定	表示変更有効 表示変更無効	○
13	室内ファン速調	ファン3速 ファン2速 ファン1速	○
14	冷凍/ヒートポンプ	ヒートポンプ 冷凍	※
15	外部入力設定	個別運転 全台同一運転	○
16	エラー表示設定	エラー表示有り エラー表示無し	○
17	モード制御設定	モード4位置停止 モード3位置停止	○

(2) 室内機能

機能番号	機能内容	設定内容	初期設定
01	高天井設定	標準 高天井1 表示しない	○
03	ファンタイマ設定	180時間後 600時間後 1000時間後 1000時間一時停止	○
04	モード制御設定	モード4位置停止 モード3位置停止	○
05	外部入力切換	モード入力 モード入力	○
06	運転許可/禁止	通常運転 有効	○
07	暖房室温補正	通常運転 室温補正+3℃	○
08	暖房ファン制御	常風 停止-回風	○
09	凍結防止温度	2.5℃ 1℃	○
10	凍結防止制御	ファン制御有効 ファン制御無効	○
11	電気集塵機	ファン制御有効 ファン制御無効	○
12	加湿器制御	加湿器非運転 加湿器運転	○

注1:「※」印の初期設定は、接続される室外機の機種(ヒートポンプ機/冷凍機)により、自動判別されます。

G 冷房試運転操作

リモコンを次の手順で操作してください。

- 冷房試運転の開始
 - 「運転/停止」ボタンを押して、運転します。
 - 「運転切換」ボタンにより、「冷房」を選択します。
 - 「試運転」ボタンを3秒以上押します。「項目」で選択 → 「セット」で決定 → 「冷房試運転」表示と、表示が切り換わります。
 - 「冷房試運転」の表示で、「セット」ボタンを押すと、冷房試運転を開始します。表示は、「冷房試運転」となります。
- 冷房試運転の解除
「運転/停止」ボタン又は、温度設定「 」ボタンを押すと、冷房試運転を終了します。「冷房試運転」表示が消灯します。

運転データの確認

リモコン操作により、運転データの確認ができます。

- 「点検」ボタンを押します。「項目」で選択 → 「セット」で決定 → 「運転データ表示」表示と、表示が切り換わります。
- 「運転データ表示」の表示で、「セット」ボタンを押します。
- 表示が「室内00▲」(点滅)となります。
▲▼ボタンで、表示したい室内機番号を選びます。(室内機が一台しか接続されていない時は、室内番号は切り換わりません。)
- 「セット」により確定します。(室内機番号が点滅から点灯に変わります。)
「データ読込中」(データを読込む間点滅表示) ↓
「運転データ」表示と表示され、01番のデータが表示されます。
- ▲▼ボタンにより、現在の運転データを01番より順に表示します。表示される項目は右記の通りです。
※機種により該当するデータがないものは、その項目は表示されません。
- 室内機を変更する場合は、「エアコンNo.」ボタンを押すことにより、室内機選択表示に戻ります。
- 「運転/停止」ボタンを押すと、終了します。

設定の途中で、「リセット」ボタンを押すと、一回前の設定画面に戻ります。

番号	データの項目
01	運転モード
02	設定温度
03	吸込温度
04	内熱交温度1
05	内熱交温度2
07	室内ファン速度
11	室内運転時間
21	外気温度
22	外熱交温度1
23	外熱交温度2
24	運転Hz
26	低圧
27	吐出管温度
28	ドレーパ温度
29	CT電流
31	室外ファン速度
32	静音モード有効/無効
33	G3H2 ON/OFF
34	G3H1 ON/OFF
35	F77H1 ON/OFF
36	エラー運転時間
37	膨張弁開度1
38	膨張弁開度2

H ドレンポンプ運転操作

ドレンポンプ運転がリモコン操作により可能です。リモコンを次の手順で操作してください。

- ドレンポンプ強制運転の開始
 - 「試運転」ボタンを3秒以上押します。「項目」で選択 → 「セット」で決定 → 「冷房試運転」表示と、表示が切り換わります。
 - 「冷房試運転」の表示の時に、「」ボタンを一度押し、「ドレンポンプ運転」表示をさせます。
 - 「セット」ボタンを押すと、ドレンポンプ運転を開始します。表示: 「ドレンポンプ運転」 → 「セット」で停止
- ドレンポンプ運転の解除
 - 「セット」ボタン又は、「運転/停止」ボタンを押すと、ドレンポンプ強制運転を停止します。エアコンは停止状態となります。

I 制御の切換

(注) □ 囲みは、工場出荷時の設定

J-1	短絡	遠方運転入力 (Cn1) をレベル入力	SW9-1	オートドリアクトパネルの
	開放	遠方運転入力 (Cn1) をパルス入力	SW9-2	低下長さの設定
J-2	短絡	暖房サーモOFF時短風	SW9-3	OFF
	開放	暖房サーモOFF後5分間停止し短風		ON
J-3	短絡	通常運転	SW9-4	OFF
	開放	遠方運転入力 (Cn1) により運転制御		ON
J-4	短絡			
	開放	暖房室温補正+3℃		